

「N だの N だの」の意味

鈴木 智美
(2002.10.31 受)

【キーワード】 「だの」、並立・列挙、否定的ニュアンス、価値・現実味、例示

1 分析の対象とする範囲

本稿では、名詞 (N) に接続し、事物を並立・列挙する働きをするとされる「だの」の意味を分析する。この「だの」には、以下の(1)(2)に示すように「N だの N だの」、および「N だの N など」の2つの使い方があるとされる(国立国語研究所(1970: 68-69))。(ただし(1)(2)の例文は本稿における作例である。)

(1) 「N だの N だの」の形

新学期に入り、教科書だの辞書だの買わなければならない、何かとお金がかかる。

(2) 「N だの N など」の形

新学期に入り、教科書だの辞書などを買わなければならない、何かとお金がかかる。

本稿では、分析の対象を上(1)に示すような「N だの N だの」の形のものに限定する。また、「だの」には、名詞以外の述語(形容詞および動詞)に接続する用法もあるが、本稿ではこれらは分析の対象から除く。

2 問題の所在

例えば、留学生日本語教育センターの予備教育課程において勉強している学生を考えてみよう。その学生の作成した自己紹介の文章の中に、「N だの N だの」を用いた以下の例(3)のような文が見られたとする。

- (3) 私は今年の4月に日本へ来ました。日本へ来てからもう6ヶ月たちました。今センターで日本語だの数学だの勉強しています。勉強は毎日大変ですが、いい大学に入ることを目標にがんばっています。

この文章に文法的な誤りはない。しかし、意味的にどこか不自然だと感じられないだろうか。

この文章は、以下の例(4)のように変えてみると、不自然さがなくなる。

- (4) 私は今年の4月に日本へ来ました。日本へ来てからもう6ヶ月たちました。今センターで日本語や数学などを勉強しています。勉強は毎日大変ですが、いい大学に入ることを目標にがんばっています。

例(3)における「日本語だの数学だの勉強しています」という部分は、「日本語」と「数学」とを取り上げて並立・列挙し、勉強している科目の例として示したものである。この部分を上記の例(4)のように「日本語や数学などを勉強しています」に変えると、文章全体に不自然さが感じられなくなる。

このことから、例(3)において感じられる不自然さというのは、この「NだのNだの」の使い方が原因となっているのではないかと考えられる。

では、「NだのNだの」を用いたことによって、なぜ例(3)の文章が意味的に不自然になるのだろうか。本稿の目的は、「NだのNだの」の意味を的確に記述することにより、この問題に十分な答えを与えることである。

3 先行研究の記述の問題点

先行研究において、この「NだのNだの」の意味はどのように記述されているのだろうか。また、それらの記述は、第2節で提示した問題に十分な答えを与えることができるだろうか。

ここでは、先行研究における「NだのNだの」の意味の記述を概観する。しかし、これらの記述をもって、第2節の問題に十分な答えを与えることは難しいと思われる。

3.1 並立・列挙の働きにのみ言及するもの

以下の(5)～(7)に示した先行研究では、いずれもこの「NだのNだの」の「だ

の」が、代表となるいくつかの事物を並立・列挙し、それを例として示す働きをするものであることが述べられている。しかし、このような「並立・列挙」そして「例示」という働きのみからは、なぜ第2節の例(3)が文法的に誤りでないにも関わらず、意味的に不自然になってしまうのかが説明できない。(以下、いずれも下線は引用者。)

- (5) 『外国人のための基本語用例辞典 (第三版)』(文化庁 (1990: 584))

物事をならべてあげる場合に使う。[中略] たくさんあるもの的一部分だけをあげる。

- (6) 『日本語教育事典 (縮刷版)』(日本語教育学会編 (1987: 412))

同じ類に属する事物から、代表として幾つかを例示し、例示されたすべての事物が以下に述べる事物に該当し、該当する事物が更に他にもあることを暗示する。「桜だの松だの竹だのが植わっている」、「大学では哲学だの社会学だのを学んだ」、「別れるだの出るだの勝手なことを言う」などがこれである。

- (7) 『基礎日本語文法一改訂版一』(益岡・田窪 (1992:161-162))

「例示」は、該当するものの中の代表的なものを例として述べる並列表現である。したがって、他にもまだ要素があることが含意される。例示の並列表現には、「や」、「やら」、「だの」、「とか」、「なり」等がある。

また、寺村 (1991:212) では、この「だの」については例文が一つ挙げられている⁽¹⁾のみで、その意味についての記述はない。

3.2 「だの」特有の意味について言及するもの

一方、以下の(8)(9)および(12)に示した先行研究では、この「NだのNだの」の「だの」が、事物を並立・列挙し、例示する働きをするものであるということに加え、そこに何らかの特有の意味が観察されることが指摘されている。しかし、

いずれの記述も、本稿の第2節で提示した問題に答えるには十分であるとは言えない。(以下、いずれも下線は引用者。)

- (8) 『使い方の分かる類語例解辞典』(小学館辞典編集部(編)(1994:1120-1121))

「や」「とか」「だの」「やら」は、代表的な例を複数挙げるが、該当する例がほかにも存在することを言外に表わす。ただし、「や」と「とか」がはっきりと例を挙げるのに対して、「だの」と「やら」は漠然と例を挙げる場合に用いる。[中略]「だの」と「やら」では、「やら」の方が例の示し方がよりおおまかであり、仮に例を挙げている感が強い。

「だの」は漠然と例を挙げるものであるが、「やら」と比べると、そのおおまかさが劣るということになる。しかし、「漠然と、いくらかおおまかに例を挙げる働きをする」という記述には、明確化・精密化の余地が残されていると言えるだろう。また、第2節で示した例(3)の不自然さというのは、「だの」のこのような「漠然と例を挙げる」という働きから生み出されてくるものなのかどうか、検討を要すると思われる。

また、グループ・ジャマシイ編著『日本語文型辞典』(1998:201)では、以下のような記述がなされている。接続の形としては、名詞およびその他の述語に接続する「N/N a だの/N a だの」および「A/V だの/A/V だの」が挙げられている。

- (9) 『日本語文型辞典』(グループ・ジャマシイ編著(1998:201))

「やら」「とか」のようないくつかのものをあげる言い方だが、[中略]発言の内容を「いろいろ言うてうるさい」と否定的にとらえて使うことも多い。

ただし、ここで「発言の内容を否定的にとらえて使う」というのは、本稿で分析の対象とする「NだのNだの」の場合ではなく、形容詞および動詞に接続した場合の「A/VだのA/Vだの」について述べられたものである。例として以下

のようなものが挙げられている。

- (10) 彼は、やれ給料が安いだの休みが少ないだのと文句が多い。
(11) 彼はいつ会っても会社をやめて留学するだのなんだの⁽²⁾と実現不可能なことばかり言っている。

(グループ・ジャマシイ編著 (1998:201) いずれも下線は引用者。)

しかし、このように「否定的にとらえる」とされる「だの」の働きは、「発言の内容」をとらえて言う場合に限らず、本稿で分析の対象とする「NだのNだの」の場合についても同じなのかどうか、記述がない。

また、白川監修『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(2001:59-60)では、以下のような記述が見られる。

- (12) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(白川博之監修 (2001:59-60))

「～だの～だの」は「～とか～とか」に近い意味を持ちますが、現在では否定的なニュアンスで用いられるのが普通です。

ここでは、該当する要素の例を挙げる「部分列挙」の形式の一つとして、この「～だの～だの」が、「通常、否定的ニュアンスを伴う」ものとして挙げられている(白川監修 (2001:66))。挙げられている例は以下のようなものである。

- (13) 少年たちは被害者から恐喝した金をゲームだのパチンコだのに使っていたようだ。
(14) 勉強しろだの塾へ行けだのと親にしつこく言われて気が滅入った。

(白川監修 (2001:60) いずれも下線は引用者。)

ここでは、名詞に接続する「NだのNだの」と、形容詞および動詞に接続する形のものとは、特に区別されていない。従って、ここで「否定的ニュアンスを伴う」とされるものには、本稿で分析の対象とする「NだのNだの」も含まれると考えられる。

また、同じく「部分列挙」の働きをし、この「～だの～だの」が「近い意味を持つ」とされる「～とか～とか」については、「物事や動作の具体例を挙げて説明するややくだけた表現」（白川監修（2001:59）下線は引用者）、また同じく部分列挙の働きをするとされる「～やら～やら」については、「存在や感情などの状態に様々な要素が混在して整理されていない状態を示す」（白川監修（2001:60）下線は引用者）と記述されている。

しかし、ここで指摘されている「～だの～だの」の「否定的ニュアンス」とはどのようなものなのか、より明確に記述することが必要である。また、そのような否定的ニュアンスは、「だの」の持つ並立・列挙の働きからどのように生まれてくるものなのか、明らかにしなければならないと思われる。

4 「だの」の意味

ここでは、「NだのNだの」における「だの」の意味について、本稿における仮説を提示し、その検証を試みる。

4.1 本稿における分析

本稿では、この「NだのNだの」における「だの」の意味を、以下のようなものであると考える。

(15) 「NだのNだの」における「だの」の意味

「NだのNだの」における「だの」は、本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない事物N、または例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい事物Nを、あえて取り上げ、並立・列挙して例示する働きをする。

「NだのNだの」の文は、このような事物Nをあえて例として挙げることにより、結果的に当該の事態の程度がそれほど尋常ではないということを示すことになると考えられる。例えば、そのような例を挙げなければならないほどに、事態が大変である、あるいは驚くべきものである、などの意味が生じることになると考える。

4.2 検証(1)―第2節の例

「だの」の意味をこのように考えた時、第2節で見た例(3)の文章の不自然さは、どのように説明できるだろうか。以下に例(16)として再掲する。

- (16) 私は今年の4月に日本へ来ました。日本へ来てからもう6ヶ月たちました。今センターで日本語だの数学だの勉強しています。勉強は毎日大変ですが、いい大学に入ることを目標にがんばっています。

本稿における「NだのNだの」の分析に従えば、例(16)において、勉強している科目の例として挙げられた「日本語」や「数学」というのは、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない」もの、または「例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい」ものであるということになる。

この自己紹介文は、留学生日本語教育センターの予備教育課程の学生が書いたものであると仮定したものである。その学生が、勉強している科目の例を、このように「価値のない」あるいは「現実味の乏しい」ものとして挙げてしまったのでは、それが不自然に感じられるのは言うまでもないことであろう。

また、本稿における「NだのNだの」の分析に従えば、そのような事物をあえて例として挙げることに、当該の事態の程度がそれほど尋常ではないということが示されることになる。

ここでは、それらの科目を「勉強している」という事態について、例えば「こんな価値のないものを勉強しなければならないなんて、本当に大変なことだ」「こういう価値のないものを勉強していて、つまらない」あるいは「こんなことを勉強することなど、普通は考えられない、予想もできないことであり、まったくひどい」などの意味を生じさせることになってしまう。

このように、「NだのNだの」の意味を、(15)に示した本稿における分析のようになれば、第2節で提示した例(3) (=上記の例(16))の文章が、なぜ意味的に不自然であると感じられるのかという問題に、矛盾のない記述を与えることが可能となる。

4.3 検証(2)―『中級日本語』における例

また、例えば、東京外国語大学留学生日本語教育センター編著『中級日本語彙・句型例文集』に提出されている以下のような例(17)および例(18)について

も、同様の説明を行うことが可能である。(いずれも下線は引用者。)

- (17) 小学校に入学した子供のために、机だの本棚だの買ってやらなければならない。(227ページ 例文①)
- (18) 居ながらにして南極の氷山だの北洋の荒れる海だのアフリカの砂漠だの
見ることができる。(227ページ 例文*)

本稿における「NだのNだの」の分析に従えば、例(17)において、子供に買ってやるものの例として挙げられている「机」や「本棚」というものは、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない」ものとして、示されていると考えられる。

即ち「机」や「本棚」というのは、それだけを見れば、本来さほど高価なものでもなく、また家具あるいは勉強道具としても、さほど特殊なものであるとは言えないだろう。「机」や「本棚」は、その一つ一つを見れば、さほど値の張るものや、また買い物に特別に手間のかかるものでもないと考えられる。

しかし、小学校に入学した子供のためにあれこれ品物を買そろえていくとなると、それらのものがいくつも積もり重なることによって、総体的には金額もかさんでいき、また結果的には買い物の手間もかかることになるわけである。

即ち、このようなものを「買ってやらなければならない」という事態について、ここでは、例えば「こんなものをあれこれ買いそろえることまで心配しなければならず、小学校に上がるということは全く大変なことだ」、あるいは「こんなもので頭を悩ませることになるとは、考えてもいなかった」などの意味が生じることになると考えられる。

これは、本稿における「NだのNだの」の分析に従えば、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない事物」、あるいは「例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい事物」があえて例として挙げられることにより、当該の事態の程度がそれほど尋常ではないということが示されているわけである。

また例(18)は、テレビの利点について述べたものである。ここで例として挙げられている「南極の氷山」「北洋の荒れる海」「アフリカの砂漠」というのは、「本来例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい」ものとして、示されていると考えられる。

即ち「南極の氷山」「北洋の荒れる海」「アフリカの砂漠」などというものは、普通「居ながらにして」見ることができるとは、考えられないものである。しかし、そのような例をあえて示すことにより、「テレビによってそのようなままで居ながらにして見ることができるとは、全くすばらしい」「以前には考えられなかったようなことだ」など、テレビの威力が尋常ではないことが示されることになるわけである。

このように、本稿における「NだのNだの」の意味の分析は、上記の例(17)および例(18)に対しても、矛盾のない記述を行うことが可能である。

4.4 検証(3)—先行研究における例

また、本稿における分析は、先行研究における以下のような例(19)～(21)および例(22)(23)についても、矛盾のない記述を行うことができる。(いずれも下線は引用者。)

- (19) 彼女は市場に出かけると、肉だの野菜だの持ちきれないほど買ってきた。
- (20) 同窓会には中村だの池田だの、20年ぶりのなつかしい顔がそろった。
- (21) チャリティーマザーには有名人の服だのサイン入りの本だのいろいろなものが集まった。

(グループ・ジャマシイ編著 (1998:201))

本稿の分析に従えば、例(19)で買ってきたものの例として挙げられている「肉」や「野菜」というのは、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない」ものとして示されていると考えられる。肉や野菜というのは、市場で買うものとしてはごくありふれたもので、取り立てて言うほどの特別なものではない。

しかし、このような事物があえて例として挙げられることにより、それらを「持ちきれないほど買ってきた」という当該の事態に対して、「そのようなつまらないものを山ほど買って、一体何が始まるというのか」、あるいは「そんなものを持ちきれないほど買ってくるなんて、あきれるばかりだ」などの評価的な意味が生まれることになり、それほどにこの事態の程度が尋常ではないということが示されることになると思われる。

また、例(20)において例として挙げられている「中村」や「池田」というのは、

「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない」もの、あるいは「本来例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい」ものとして示されていると考えられる。

「中村」や「池田」が、当時のクラスメートとしてさほど特殊な存在でなければ、20年ぶりにその人達に会えたということに、さほど特別な意味があるとも思われない。しかし、そのような人物をあえてなつかしきを感じる顔の例として挙げることにより、それほどにその同窓会に「なつかしい顔がそろった」ということが、尋常の程度ではないことが示されることになる。

あるいはまた、20年ぶりに会えるとは予想もしていなかったような「中村」や「池田」に会えたということであれば、やはりそれほどに、「20年ぶりのなつかしい顔がそろった」という事態に対しての驚きの気持ちが示されることになるだろう。

また、例(21)において例として挙げられている「有名人の服」あるいは「サイン入りの本」についても、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない」もの、あるいは「例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい」ものとして、示されていると考えられる。

即ち、有名人が着たというだけで、いわゆる「着古し」と何ら変わりのないものや、ただサインが入っているというだけで、興味のない者にとっては何ら普通のものとは変わらない本が、バザーに集まった品物の例として挙げられている。即ち、「こんなつまらないものまで、商品として売られるべく集まってくるなんて」などと、「いろいろなものが集まった」という事態の程度が尋常ではないことが示されることになる。あるいはそれらの品物を、普通はそう簡単にはお目にかかることのない、貴重なものであるととらえるのであれば、そのような事態に対しての驚きの気持ちが表されることになる。

(22) 郵便受けはチラシだのダイレクトメールだのでいっぱいだ。

(23) 少年たちは被害者から恐喝した金をゲームだのパチンコだのに使っていたようだ。
(白川監修 (2001:59-60))

例(22)においても、「チラシ」や「ダイレクトメール」は、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない」ものとして示されていると考えられる。そして、それらを例として挙げることにより、そのようなつまらないものでいっば

いになるほどに、「郵便受けにいろいろなものが投げ込まれる」という事態の程度が尋常ではないことが示されることになるだろう。

例(23)においても、「ゲーム」や「パチンコ」というのは、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない」もの、あるいは「例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい」ものであると考えられる。

被害者から恐喝した金の使い道の例として、そのような価値のないつまらないもの、あるいは普通は考えられないようなものが挙げられることで、事件の異様さが尋常でないことが示されることになると思われる。

5 まとめ

本稿では、先行研究の記述の不十分な点を指摘し、「NだのNだの」における「だの」の意味を分析した。

そして、本稿ではこれを、「本来例として取り上げて示すだけの特別な価値のない事物N、または例として取り上げて示すに適當ではない、現実味の乏しい事物Nを、あえて取り上げ、並立・列挙して例示する働きをする」ものであると分析した。

また、結果的に「NだのNだの」の文は、このような事物Nをあえて例として挙げることにより、当該の事態の程度がそれほど尋常ではないということを示すことになる。例えば、そのような例を挙げなければならないほどに、事態が大変である、あるいは驚くべきものである、などの意味が生じることになる考えた。

このような分析を行うことにより、「NだのNだの」を用いた、意味的に不自然な文については、それがなぜ不自然となるのかを記述することが可能となり、また、意味的に適格な文についても、矛盾のない記述を与えることが可能であることを示した。

今後の課題は以下の2点である。

- (24) 同じく並立・列挙の働きをするとされる「NとかNとか」および「NやらNやら」との比較対照を行い、「NだのNだの」の意味の違いを詳細に明らかにしていくこと。
- (25) 名詞以外の述語（形容詞および動詞）に接続する場合の「だの」の意味を明確に記述すること。

以上の2点をふまえ、「だの」の意味をより包括的に論じることを次段階の課題としたい。

注

- (1) 挙げられている例文は「始めから勝手は分かっているけれど御自分が散々人をだましておいて、それが分かったからって、強迫するだの、下等だのよく平気でそんなことがおっしゃれるわね。」(寺村 (1991:212))である。これは、本稿で分析の対象とする「NだのNだの」の形のものではない。
- (2) この例文については、『「…だのなんだの」という慣用的表現もある』(グループ・ジャマシイ編著 (1998:201))とされている。

引用文献

- グループ・ジャマシイ編著 (1998) 『日本語文型辞典』くろしお出版
- 国立国語研究所 (1970) 『現代語の助詞・助動詞一用法と実例一 (第6版)』秀英出版 (初版 1951年)
- 小学館辞典編集部 (編) (1994) 『使い方の分かる類語例解辞典』小学館
- 白川博之監修 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味 第III巻』くろしお出版
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター編著 (1994) 『中級日本語 語彙・文型例文集』凡人社
- 日本語教育学会編 (1987) 『日本語教育事典 (縮刷版)』大修館書店
- 文化庁 (1990) 『外国人のための基本語用例辞典 (第三版)』文化庁
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法一改訂版一』くろしお出版

The Meaning of “N *dano* N *dano*”

SUZUKI, Tomomi

The purpose of this paper is to analyze the meaning of “N *dano* N *dano*”.

This *dano* has been said to list two or more items (nouns) as inexhaustive examples. But sometimes the sentences that use this *dano* sound semantically unnatural even when they are grammatically correct. Although one of the studies points out that *dano* adds some “negative” nuance to the sentence, this analysis is not sufficient to explain why in some instances an unnaturalness results.

To solve this problem, I describe the meaning of *dano* as follows:

- (1) *Dano* lists two or more items (nouns) as examples in an inexhaustive way.
- (2) Those items are not so valuable or realistic for the good examples.

This analysis is consistent with the following observation.

- (3) *Watashi wa ima gakko de nihongo dano sugaku dano benkyo shite imasu.*
(I'm studying Japanese, mathematics and others at school now.)

(3) sounds unnatural unless the speaker thinks that Japanese and mathematics are not such valuable or realistic examples of the subjects which the speaker is in fact now studying. (4) below is more natural if the speaker does not wish to evoke this evaluative attitude towards their examples.

- (4) *Watashi wa ima gakko de nihongo ya sugaku nado o benkyo shite imasu.*